

守山まるごと活性化 議事要旨

作成日:平成28年1月29日

作成者:村上

会議名: 第5回 B みんな集まれ! 中洲にぎわい活力創出プロジェクトプロジェクト推進会議

日時: 平成28年1月19日(火) 午後7時30分から8時50分まで

場所: 中洲会館 1階 和室

出席者: 本城、津田、北村、井入、辻、樋上、山本

出席者(行政): 元気塾(貝増、寺西、三津川、橋本)、館長、会館主事

使用資料: 次第、バルーンリリースまとめ、メッセージカード到着連絡に関する書類、バルーンリリースちらし、ふれあいの灯ちらし、守山まるごと活性化プラン冊子(Bプロジェクト部分のみ抜粋)、元気塾資料(アンケート結果、写真)

議題

- ・第26回中洲ふれあいの灯の振り返り
- ・今後のBプロジェクトの方針について

会議要旨

内容

●第26回中洲ふれあいの灯の振り返り

【バルーンリリース】

- ・当日は330個の風船を用意したが、内、20個程、リリース前に割れたり飛んでいってしまったので、当日リリースできたのは約310個。
- ・メッセージカードの到着報告は1件あった。

《意見》

- ・メッセージカードの到着報告があったことを中洲学区の広報誌に掲載してほしい。
⇒「中洲の窓」2月号に掲載した。
- ・メッセージカードに対する返事があると嬉しい。
- ・メッセージカードの記入にあたり、水性ペンでは字が滲んでしまうので、油性ペンの方が良かった。
- ・メッセージカードには中洲会館のメールアドレスを記載していなかったが、愛知県の方はわざわざ会館のメールアドレスを調べ、直線距離を測った上で、報告をくれた。
- ・毎年、バルーンリリースをしてはどうか。→費用の関係もあるが、毎年もすると子どもたちの反応が薄れるのでは。
- ・もちつきコーナーの前に行なったので、バルーンリリースで集まった子達もちつきに行き、良い宣伝になったともちつきコーナーの担当者が話していた。
- ・記者から、バルーンリリースやなぞ解き、焼印コーナーがあることの資料提供がほしかったという意見を聞いた。(事務局から記者提供はしていた)
- ・子どもだけでなく、若者(大学生)も来た。
- ・子どもの中で、自分がリリースしたい風船の色の要望があった。中には、いくつも風船をもらいに来る子どもがいた。
- ・風船をリリースするときに、紙紐とメッセージカードが絡まってあがっていったところがあった。業者にリリースの仕方のコツを聞いておけばよかった。

(裏面に続く)

決定事項

来年度は、夏まつりの活性化につながるものを企画し、実行委員会の場で提案する。
また、夏まつりでの内容を検討しながら、プランのほかの取り組みについても検討していく。

次回以降について

・次回会議は4月19日(火)19時30分～(於 中洲会館2階大ホール)

会議要旨

内容

【なぞ解き、焼印体験】

- ・元気塾からアンケート結果を報告。
- ・今回元気塾で作成した焼印は、いつでも中洲学区に貸与可能。ただし、木は用意が必要（5万円／300枚）。
- ・なぞ解きの正解者用の景品として、市の啓発物品を50セット用意していたが、参加者が多く不足した。
- ・焼印体験では同じ子が何回も体験していたが、檜の木を300個用意して250個が使われた。

《意見》

- ・なぞ解き、焼印体験は子どもたちがとても楽しんでいて、このコーナーがなかったら、点灯式の時間まで子どもたちが手持ち無沙汰になり、間がもたなかったと思う。
- ・来年も焼印体験ができれば良い。

【ふれあいの灯全体】

《意見》

- ・まちづくりは継続していくにも、積極的なアピールが必要。
- ・子どもが来ると保護者も来る。
- ・毎年、目新しいものを企画実施していった方が良い。
- ・来年は地元企業も巻き込んで集客できる企画を考えてはどうか。

●今後のBプロジェクトの方針について

【自治会の祭りについて】

プラン取り組み4のまちづくり活動への若者の参加促進について協議するなかで、自治会の祭りへの若者の参加人数の減少について話が及んだ。

《意見》

- ・自治会の祭りの神輿担ぎでも強制でないと中々集まらない。
- ・全体数が多い中で募集をかけても、「自分が行かなくても誰かがしてくれるだろう」と考える人が増え、参加者が少なくなりやすい。
- ・祭りが無い自治会では、祭りに参加したくて他の自治会の祭りに参加しに行く人もいる。
- ・外国人に神輿担ぎを手伝ってもらえるのはどうか。国際交流につながる。
- ・年度ごとに自治会を回り、自治会のお祭りを盛り上げるのはどうか。

【全体】

《意見》

- ・プランでは取り組みが1～5個あるが、取り組み1以外は実施が難しい。
- ・ハード事業を実施する際、共通のものなら良いが、どこかの自治会の場所でハード事業を行なうと不公平感が生まれる可能性が高い。
- ・夏まつりの中で、世代交流ができるイベントを提供するのはどうか。

⇒来年度は、夏まつりの活性化につながるものを企画し、実行委員会の場で提案する。

夏まつりは8月初旬に開催予定のため、6月中に何をするのか検討が必要。

また、夏まつりでの内容を検討しながら、プランのほかの取り組みについても検討していく。